

算数科 学習指導案

令和4年 2月16日 水曜日 3校時

小学部2・3年・低学年こすもす・すみれグループ（自立活動を主とする教育課程） 計4人

指導者 (MT) 居村 純 (ST) 田中 幸、吉田 真由美、吉野 照彦

1 題材名（単元）「ぴったりおなじ、どうぞ」

2 単元（題材）の目標

- ・ 5までの集合数をとらえ、対応させて1つずつ配ることができる。 (知識及び技能)
- ・ 5までの集合数を直感的に捉えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・ 数のまとまりに気付き、工夫して1対1対応させることができる。 (学びに向かう力・人間性等)

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	① 3、4、5の集合数を捉えて、5までの動物の衝立に対応させて配ることができる。	① 3、4、5の集合数を直感的に捉えることができる。	① 3、4、5の数のまとまりに気付き、工夫して1対1対応させようとしている。
学習活動 に即した 具体的な 評価規準	① まとまった数の食べ物模型があることに気付く。 ② 5までの動物の衝立に対応させて、食べ物模型を配ることができる。	① 3の食べ物模型の集合数を捉えることができる。 ② 4の食べ物模型の集合数を捉えることができる。 ③ 5の食べ物模型の集合数を捉えることができる。	① 5までの動物の衝立に対応させた、食べ物模型の集合数を選ぼうとしている。 ② 5までの動物の衝立と食べ物模型の集合数がぴったり同じになるまで取り組もうとしている。

4 児童の実態

本グループは、自立活動を主とする教育課程の小学2年生から3年生の児童が所属している。これまで、物の有無や5までの数の概念、表し方について学習してきた。好きな活動には、集中したり一生懸命取り組んだりすることができるが、新しい学習や活動については、取り組むまでに時間を要することもある。

5 単元設定の理由

低学年こすもす・すみれグループの児童は、これまでの算数の学習において具体物を1つずつ捉えて対応させることが、少しずつできるようになってきた。そのような実態から、1から5までの数のまとまり（以下、集合数とする）を捉えることができる本単元を設定した。

本単元は、視覚や触覚を用いて、集合数を直感的に捉えることを目的としている。そのため、指導の際に数字、数唱は意識させないようにしている。また、児童が集合数に対して、異なる数を答えた場合に、自らの誤りに気付くことができるような教材の工夫を行う。そのような工夫を行うことで、児童が何度も試行錯誤をしながら集合数をとらえることができるようにしていきたい。また、これまでの様々な授業や行事等の中で、物語の中の役になり活動をする中で高い意欲を示してきたことを踏まえて、物語の中の役になりきりながら、集合数を学習する場面を授業で設定することで、児童の学習意欲を高めたい。

6 単元の指導計画（全7時間、本時は第3時）

	小単元名	学習内容	評価規準
第1時 第2時 第3時 本時	ぴったりおなじ3	3までの雀の絵に対し、1・2・3のまとまりから食べ物の具体物を選んで、対応させる。	ア-①② イ-①
第4時 第5時	ぴったりおなじ4	4までのうさぎの絵に対し、2・3・4のまとまりから食べ物の具体物を選んで、対応させる。	イ-② ウ-①
第6時 第7時	ぴったりおなじ5	5までのからすの絵に対し、3・4・5のまとまりから食べ物の具体物を選んで、対応させる。	イ-③ ウ-②

7 指導に当たって

「算数・数学科」学習指導要領との関連

○領域（数量の基礎・数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用）
○段階（1段階 2段階 3段階）
○学習内容
・5までの範囲で集合数を捉える・・・数と計算
・5までの範囲で対応させて食べ物模型を配る・・・数量の基礎、数と計算

8 本時について

(1) 目標

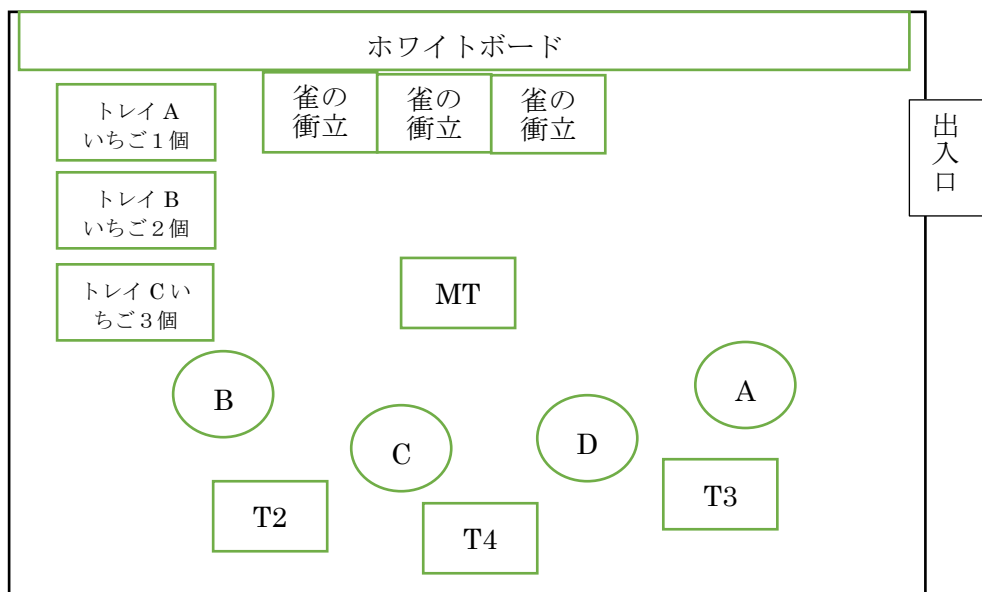
- ・3個のいちごの集合数を直感的に捉えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

(2) 展開

時間	活動内容	指導上の留意点	評価
導入 10分	(1) あいさつ ・あいさつをする ・はじまりの歌（はじまるよ） ・予定の確認をする。 「ぜんべいじいさんのいちご」の話を聞く。	・全体が絵本に注目できるようにホワイトボードに話や絵を大きく映すようにする。	
展開 25分	(2)ぴったりおなじに選んで渡そう 全体 3匹登場する雀の絵に、いちごが1個入っているトレイA、2個入っているトレイB、3個入ってトレイCから、雀の数と合ういちごのトレイを選んで渡	・集合数を直感的に捉える活動なので、教員から雀やいちごの数の数唱は行わないようにする。児童が自発的に数える場合は良いこととする。	

	<p>していく。</p> <p>児童 ABC 3つのトレイの中から、雀の衝立と同じ数のいちご模型が載っているトレイを選んで雀の口に1つずつ渡していく。</p> <p>児童 DE いちごが3個入ったトレイ Cを確認した上で、雀の口に1つずつ渡していく。</p>	<p>児童 ABC: 児童が誤答した際に、「足りなかった」ことを意識させるために、衝立の雀を教員が大きく動かす。</p> <p>児童 DF: いちご模型と雀の衝立の数がぴったり合うことを意識させるために、あらかじめ、児童にイチゴが3個入ったトレイ Cを見せる。</p>	<p>イ-① (行動観察)</p> <p>イ-① (行動観察)</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>(3) ふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動中に撮った写真、映像をスクリーンで見ながらふり返りをする。 <p>(4) おわりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の活動の取り組み方や集合数を捉えようとする様子、1対1対応をしている様子を見て、教員が良かったところを伝えるようにする。ふり返ることで児童の自信を高めることに繋げる。STが活動中に写真や動画を撮り各児童の記録を取っておく。 	

(3) 配置図



※雀の衝立、いちごの入ったトレイは読み聞かせの後に登場。

※雀の衝立の口の部分にいちご模型をくっ付けて渡すことができる。